

## 第 52 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 27 年 4 月 27 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 7 名
- 出席委員 7 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、牧野直子、桑田政美、稲井信也、  
中村保、高谷和彦、須貝昭子
- 以上 7 名
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)  
大平麻由美 (編成課長)  
野間 耕平 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 公開生放送「3.11 を忘れない」  
2) 審議  
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

今回は、3/15 に、みのお市民活動センター前で実施した公開生放送「東日本大震災 復興支援イベント～3.11 を忘れない～」をお聴きいただきました。

箕面市内の 20 団体が制作・出演した防災ラジオドラマから、聖母被昇天学院中学校高等学校と、レインボーこども会の作品を改めて放送し、制作に関わった生徒のみなさん、子どもたちにも出演してもらい、制作の裏話や思いを伺いました。

後半は聖母被昇天学院・聖歌隊によるチャリティーコンサートを放送しました。

東日本大震災発生以来、3月11日前後に毎年復興支援イベントを行っている市民活動フォーラムみのおとのコラボで、イベントと放送を通して、多くのかたと復興支援の思いを共有する目的で放送しました。

#### (2) 審議

委員長：ただいま番組の説明がありました。それでは番組審議をお願いします。

委員 A：この日の放送の時、私も現場に立ち会っていました。公開放送という形式で、みのおキューズモールのみのお市民活動センター前という場所で、タッキーを通じて発信できたことは大変良かったです。パーソナリティは、子どもたちからの話の引き出し方が上手く、オープニング曲を始めとする選曲も大変良かったです。聖母被昇天学院・聖歌隊のコーラスのとき、音が遠くなってしまったのは、マイクに問題があったのですか？

事務局：当日、リハーサルの時間が十分取れなかったことと、屋外での音響ということで、難しい状況でした。

委員長：私も音量の差が気になりました。

委員 B：冒頭の音楽が気持ちよく、ナレーションも良かったです。聖母被昇天学

院のコンサートは、音量が小さかったのが気になりました。屋外というリスクを背負っても、外へ出る放送が増えた方が良いと思います。

事務局：音響については、今回外注せず、社内に対応しました。技術レベルの向上が、今後の課題だと感じています。

委員 C：みのお市民活動センターの玄関前で実施したのが、非常に良かったです。出演する生徒の保護者たちが熱心に見守っていたのと、会場での販売や音に誘われて、一般の人もたくさん見に来ていました。生放送の直前まで、会場の東北物産展のことなどをアナウンスしていただき、たくさんのかたに聞いてもらえたと思います。音響については、屋外で難しいと事前に聞いていたので、より良い音が取れるよう、経験を積んでいけば良いと思います。子どもたちが防災ドラマの取り組みをその場で話してくれたのは、臨場感があり、制作の裏側の話も聞けてすごく良かったです。

委員 D：冒頭の入りはとてもいい感じで、このまま聴いてみようという気になりました。しかしその後のコンサート部分では音が聴き取りにくく、もし生で聴いていたら、その場でラジオを消そうかと思ったぐらい聴き辛かったです。防災ラジオドラマについては、ドラマを作るという一過性のことだけでは、防災意識の向上には程遠いのではないかと思います。放送の意図が今回の内容からはくみ取れなかった。公開放送の難しさというのを、今回は痛感しました。

事務局：出演者については、子どもから高齢者までバランスよく配置したかったのですが、調整の結果、子どもばかりになってしまいました。また、コンサート部分を少なくして、防災についての比重を高められれば良かったのですが、状況の制限もあり、その中で最善をめざした結果、このような形になりました。

委員 E：パーソナリティのインタビューは、ゲストのコメントをうまくまとめていました。テーマ曲の選曲が良く、企画・制作にも努力が感じられました。音響については、臨場感が無く、悪い録音という感じで、音楽番組

ではないから仕方ないかというところでした。全体としては良い番組だったと思います。

委員 F：構成や技術面の問題については、予算の制約もあったかと思います。今回の番組を聴いて、重要なポイントが二つあると思いました。一つは、私がたまたまパーソナリティや出演者の顔を知っており、より身を入れて聴いたということで、ここにコミュニティ FM のポイントがあると思います。ですから、公開放送をどんどんやって、パーソナリティの顔を知ってもらうのはすごく大事です。もっと気軽に「出前放送」のような感じで、いろいろなところに出ていくことで、リスナーと双方向でつながっていけないのでしょうか。そこに生放送の意味があると思います。もう一つのポイントは、防災ドラマについて、音源を放送するだけではなく、制作のエピソードも紹介することで、一つ一つがつながっていったところに良さを感じました。

委員 B：安価で公開放送が可能なら、市内の自治会の催しなどでも予算を組める可能性があるので、どんどん外に出て行ってほしい。また、いろいろな同好会の人を集めてパーソナリティとトーク、座談会といった番組も検討してはいかがでしょうか。

委員 C：今回の公開放送のような場合、「放送で何を伝えたいのか」を企画段階ではっきりさせるべきだと思います。

委員 B：いろいろ問題もあったが、チャレンジしたからこそこういう議論ができます。技術の向上にもつながるでしょう。

事務局：決められた予算の範囲で折り合いをつけながら、ベストの放送をめざすことが大切だと考えています。回線費用や人手の問題はありますが、私たちも外に出て放送したいという思いは持っています。放送可能な拠点や予算を出せるという団体があれば、ぜひ教えてください。

委員 B：「外での録音だから、これくらいは仕方がない」と思ったら、そこで終わってしまいます。「できない」という限界を自分で決めずに、向上してい

ってほしいです。

委員長：それではどうも長時間、ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 27 年 4 月 27 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会